

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

学習指導要領の内容		問題番号	出題のねらい	評価の観点	A設定通過率 (%)	B通過率 (%)	AとBの比較
3・4年	〔知識及び技能〕 (2)情報の扱い方に関する事項 イ	1	話し手の伝えたいことの内容の中心を聞き取り、書き留めている。	知・技	80	69	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 A話すこと・聞くこと(1)エ		話し手の伝え方の工夫について、聞き取っている。	思・判・表 思・判・表	75 75	83 84	↑ ↑
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 A話すこと・聞くこと(1)イ		話の中心に気を付けて聞き、理由を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えて話している。	思・判・表	60	43	↓
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 エ	2	(1) 学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読んでいる。	知・技	70	91	↑
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 エ		(2) 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく書いている。	知・技	50	80	↑
3・4年	〔知識及び技能〕 (3)我が国の言語文化に関する事項 イ	3	(1) 学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく書いている。	知・技	70	63	↓
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ		(2) 文脈に合う慣用語を指摘している。	知・技	70	52	↓
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 ウ	4	(1) 簡単な単語について、ローマ字で書いている。	知・技	60	85	↑
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 カ		(2) 簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読んでいる。	知・技	50	71	↑
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 カ	5	接続する語を適切に使い、一文を二文に分けて書いている。	知・技	40	33	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと(1)ウ		目的や条件に応じて、必要な情報を捉え、内容の中心を明確にして書いている。	思・判・表	50	44	↓
3・4年	〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 カ	6	段落相互の関係をつかんで、接続語の役割を正しく指摘している。	知・技	70	33	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)ウ		目的に応じて、中心となる語や文を見つけて要約している。	思・判・表	65	49	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)ア		目的や必要に応じて、要点や細かい点に注意しながら読み、書き手の考えとそれを支える理由や事例について、叙述を基に正しく捉えている。	思・判・表	60	72	↑
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)イ	7	① 登場人物の行動について会話文や地の文から関連的に捉えて、当てはまる言葉を指摘している。	思・判・表 思・判・表 思・判・表	70 70 70	88 86 87	↑ ↑ ↑
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)イ		② 会話文や行動、地の文を基に捉えて、当てはまる登場人物を指摘している。	思・判・表	60	39	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)イ	8	(1) 登場人物の行動や気持ちについて、複数の叙述を基に捉えて、当てはまる言葉を指摘している。	思・判・表	60	29	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)エ		① 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化や行動について叙述を基に想像して読み、当てはまる言葉を指摘している。	思・判・表	65	33	↓
3・4年	〔思考力、判断力、表現力等〕 C読むこと(1)エオ		② 登場人物の気持ちについて叙述を基に想像し、登場人物の境遇や状況を把握しながら自分の考えをまとめている。	思・判・表	45	21	↓

A設定通過率とB通過率を比較する際は、下記により判断する。

+5ポイントより上の場合：「↑」 ±5ポイントの範囲内：「-」 -5ポイントより下の場合：「↓」

評価の観点	知・技	思・判・表
A設定通過率	63	63
B通過率	66	58

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	話の中心の聞き取り	80	69	69	68	72	70	72	73	
	二	伝え方の工夫の聞き取り	75	82	82	79	86	87	89	83	
			75	84	84	69	90	89	92	89	
三	話の構成を考えた話し方	60	45	46	36	43	48	41	38		
2	一	(1)	「都合」の読み方	70	91	91	91	85	83	90	83
		(2)	「半(ば)」の読み方	50	89	89	90	63	54	82	63
	二	(1)	「てんこう」の書き方	70	61	62	55	63	64	68	58
		(2)	「こっき」の書き方	70	49	49	43	51	50	59	47
	三	慣用句の指摘	60	92	92	93	76	78	85	69	
	四	(1)	ローマ字の書き方 (はなび)	50	81	82	63	71	69	74	71
		(2)	ローマ字の読み方 (SYAMOZI)	65	86	87	67	76	78	83	71
3	一	文章構成(一文を二文に分ける)	40	36	36	31	40	51	32	32	
	二	目的や条件に応じた表現 (新聞記事の一部)	50	48	49	28	45	51	48	36	
4	一	接続語の指摘	70	35	35	31	32	32	29	35	
	二	中心となる語や文を見つけた要約	65	51	52	38	51	52	56	47	
	三	要点の読み取りと書き手の考えや 事例の把握	60	73	74	59	71	74	74	67	
5	一	①	叙述を基にした人物の行動の指摘	70	88	88	81	89	91	89	86
		②		70	87	87	78	87	88	89	86
		③		70	88	88	79	89	89	92	88
	二	叙述を基にした人物の指摘	60	41	42	26	38	36	45	36	
	三	(1)	叙述を基にした人物の行動や気持ちの読み取り	60	34	35	23	23	21	29	20
		(2)	①	人物の気持ちに適した叙述の書き抜き	65	36	37	19	30	30	41
②			人物の気持ちや行動についての考え	45	25	26	10	22	27	27	15
教 科 全 体			63	64	64	55	60	61	64	57	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内			県全体	
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
68	69	68	69	67	70	70	73	69	67	67	68	70	70	70	69
86	84	92	88	90	86	88	87	85	87	87	88	79	79	77	83
86	83	90	91	89	88	90	87	87	85	84	90	78	77	81	84
44	44	47	48	39	41	38	43	42	39	40	34	43	44	42	43
95	96	95	96	94	91	91	93	89	94	95	91	91	92	86	91
68	68	77	64	67	89	88	91	89	61	63	55	88	88	85	80
70	68	77	65	78	62	64	59	63	59	59	57	61	62	57	63
62	59	65	65	73	47	46	50	46	56	57	49	51	51	48	52
75	72	90	77	72	91	94	89	89	73	71	79	90	91	87	85
66	64	76	68	61	68	74	61	67	67	69	58	70	68	75	71
75	74	79	80	68	76	78	75	75	72	72	69	75	75	77	78
33	28	57	41	24	30	34	25	30	30	27	41	31	30	33	33
44	43	52	49	42	43	39	47	44	31	32	24	45	47	34	44
28	28	30	24	31	36	37	38	35	28	28	28	32	32	34	33
49	49	51	54	43	49	48	50	50	46	49	32	48	49	44	49
75	75	76	76	69	71	74	69	70	69	71	57	71	72	68	72
89	89	91	88	93	89	90	89	88	85	86	80	86	87	81	88
87	87	87	87	86	87	88	86	87	81	83	72	82	83	78	86
89	89	87	89	89	89	91	88	88	84	84	81	84	85	81	87
38	39	47	38	25	39	39	39	39	37	40	25	38	38	35	39
33	32	39	35	32	32	24	33	36	22	23	16	24	24	24	29
32	35	27	32	27	34	40	32	31	27	30	12	30	31	26	33
23	24	20	28	15	21	21	17	24	14	16	5	16	16	16	21
62	61	66	63	60	62	63	62	62	57	58	53	60	60	58	62

※通過率(%)は、「総正答数/総解答数」で算出した数値の小数第1位を四捨五入した整数値で表しています。

ウ 個々の問題の主な誤答例

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、調査全体の誤答の割合とは異なる)
1	一	69 イ (25.5)、ア (2.0)、エ (0.5)、記号以外 (1.5)
	三	43 人前で話すのが苦手だから (13.0) 先生にすすめられたから (6.5) 内容は合っているが、文末の「です」につながらない (6.0) やってみたいから (4.5) 無答 (4.0) 宮崎さんと同じだから・にているから (3.5) 運動会をもちあげたいから・おうえんしたいから・はげましたいから (2.0) おうえんしてくれたから・はげましてくれたから (2.0) 作文を読む (1.0) 放送委員会に入ったから (1.0) きんちょうするから (1.0) その他 (6.0)
4	一	33 アウ (15.5)、エイ (10.0)、エウ (9.5)、アイ (7.5)、ウイ (6.0)、 イア (8.0)、ウア (3.0)、エア (3.0)、無答 (1.0)、記号以外 (3.0)
	二	49 体温計 (7.0)、無答 (6.0)、点めつ (6.5)、ランプ (2.5)、おわり (2.0)、 くふう (1.5)、ひかり (1.5)、その他 (16.0)
5	三(2) ①	33 無答 (23.0) 二人は、じつとつ立って、見えなくなるまで子牛を見送ってやりました (13.0) 「売ったら、いやだ。いやだ。」 (5.0) しんぺい君は、ゴクツとつばを飲みこみました (2.0) しんぺい君は、急いで山道をかけ登って、おじいさんに知らせました (1.5)
	三(2) ②	21 無答 (23.0) 条件2が不備 (条件1、4は満たしている。条件3は不問) (15.0) 条件3が不備 (条件1、2、4は満たしている) (14.5) 解答が途中 (条件1～4は不問) (10.0) 条件1が不備 (条件2、3、4は不問) (3.0)

エ 今後の指導について

○課題の見られた問題 4

○出題のねらい

段落相互の関係をつかんで、接続語の役割を正しく指摘できるかを判断する問題である。

出題の意図は、目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読むことの見方を見るため、文章の要点と密接な関わりをもつ、適切な接続語を選ぶ問題とした。

○分析結果と課題

分析の結果、結論の「このように」の指摘は比較的できている。しかし、並列の「また」の指摘については、説明の「なぜなら」や逆接の「ところが」を選んだ解答が多かった。

課題として、接続語の役割を理解していないことや、各段落の内容を把握して段落相互の関係を的確に捉え、それにふさわしい接続語を指摘する力が不足していることが考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、段落相互の關係に着目しながら接続語の役割について考えることができるよう、児童自身が必要感をもてるような言語活動の工夫が大切である。その際には、説明的な文章において、各段落の要点を押さえる活動と同時に、接続する語句の役割についての理解を基盤に、文と文との関係、話や文章の構成や展開などについて理解させることが大切である。また、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」と関連させて指導することも必要である。

指導例

段落相互の關係をつかんで、接続語の役割を考えながら読む能力を高める指導 ～単元名「○○説明文をつくらう」(第4学年)～

【指導の流れ】

1 他教科等の学習と関連付けて、説明文をつくる学習の見通しをもたせる。

学習活動 (教師が他教科等の学習から適宜テーマを決め) 教師が作成した「○○説明文」を読んで説明文をつくることに興味をもち、課題意識を高める。



○○について説明文をつくって、教室で発表会をしましょう。

相手にとって分かりやすい説明文をつくりたいな。どのような文章の構成にしたら分かりやすくなるのかな。



まずは、教科書の説明文を使って、段落相互の關係について考えてみましょう。

2 段落の關係を考えながら、段落カードを正しい順に並べ替えさせる。

学習活動 教材文の題名と「はじめ」だけを示し、「なか」「おわり」に書かれていることを、段落の關係を考えながら並べ替える。

ポイント

- ・教師が作成した説明文を提示して、児童の興味や課題意識を高めさせる。
- ・「はじめ」「なか」「おわり」の構成で、児童にとって理解しやすい接続語が使われている教材文(教科書の説明的な文章等)を用いて、段落カード(教材文を形式段落ごとに分けたもの)の並べ替え活動を行い、段落相互の關係について考えさせる。

※ICT機器の共有機能を使って、段落カードを簡単に移動させたり、グループや学級全体で考えを共有できるようにさせたりする方法も考えられる。

○学習指導に当たって

今後の指導に当たっては、登場人物の行動や気持ちなどについて、物語全体を見通して、複数の叙述を基に捉えさせることが大切である。登場人物の気持ちは、場面の移り変わりの中で揺れ動いて描かれることが多いため、複数の場面に描かれた行動や会話に関わる叙述を結び付けたり、一つの叙述だけではなく複数の叙述を根拠にしたりすることで、より具体的に登場人物の行動や気持ちなどを思い描くことができる。その際には、内容について説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする言語活動の充実が大切である。

指導例

叙述を基にして、登場人物の行動や気持ちを捉える指導

～単元名「描写を味わい、表現しよう」(第5学年)～

【指導の流れ】5学年における「大造じいさんとガン」(作：椋鳩十)を例とした単元の流れ

1 登場人物の様子や行動、会話などの意味を考え、登場人物の視点から物語をつくらせる。

学習活動 登場人物の様子や行動、会話などにサイドラインを引き、場面の移り変わりの中で揺れ動く登場人物の気持ちを捉え、短い物語をつくる。



「大造じいさん」か「残雪」になったつもりで、物語をつくりましょう。



大造じいさんが残雪の行動に強く心を打たれた場面の物語をつくらう。



残雪の目線から書くのがおもしろそうだね。日記風にしてみよう。



それぞれの登場人物の様子や行動、会話などにサイドラインを引きましょう。作者の描写を根拠に、そこから想像して自分の物語にしていきます。



サイドラインを引いたところから、「たかが鳥」と思っていた残雪を「ガンの英雄」と思うようになるまで、大造じいさんの気持ちは変わってきているのが分かったよ。残雪への思いを物語にしてみようかな。



3の場面で物語をつくってみよう。この前学習した情景描写も入れて、大造じいさんの変化していく気持ちを書いてみるよ。



同じ場面で、残雪の目線から書いた友達の物語と比べてみたら、登場人物のいろいろな気持ちが分かっておもしろそうだね。

永遠のライバル
大造

今年はこのおとりのガンを使得みよう。わしは今年こそはと、小屋にもぐりこんだ。東の空が、真っ赤に燃えている。わしの心も燃えている。

よし、おとりのガンにつられて、残雪めにひとあわふかせてやろう。あつ。ハヤブサだ。わしのおとりのガンがやられたか。

その時である。大きなかげが空を横切り、仲間をすくおうとしている。わしは、残雪にじゆうを向けた。だが、なぜかひきがねを引く気にはなれなかった。

(後略)

大造じいさんの目線から書いた物語の例

ポイント

- ・想像だけで物語を書かせるのではなく、登場人物の様子や行動、会話などの叙述を基にして書かせる。また、すぐれた情景描写にも目を向けさせる。
- ・同じ場面で異なる登場人物の視点から書いた物語や、大造じいさんの気持ちが大きく変わる前後を書いた物語などを互いに読み合い、質問し合ったり、感想を伝え合わせたりさせる。

2 読み取った内容を説明したり、読んで考えたことなどを伝え合ったりして、自分の感じたことが相手に伝わるように朗読させる。

学習活動 朗読する場面を選び、自分の感じたことが相手に伝わるように朗読し、感想を伝え合う。



朗読するために、いちばん印象に残っている場面について、考えをまとめて発表しましょう。

ぬま地で大造じいさんと残雪が向き合っている場面で、頭領らしい姿を見せる残雪がいちばん心に残っています。



4の場面の平和な感じがすごく好きです。朗読するには、静かな感じで読むと、物語の最後の雰囲気が出せそうです。



～（朗読の練習をする）～



自分の感じたことが相手に伝わるように、選んだ場面を朗読しましょう。その場面を選んだ理由も伝えましょう。

残雪がはやぶさとの戦いを終えて、ぬま地で残雪と大造じいさんが向き合う場面を選びました。頭領らしい姿を見せる残雪の強さが心に残っているからです。残雪の強さや大造じいさんの感動が表れるように読みたいです。



～（朗読する）～

大造じいさんが残雪の強さに感動している様子が伝わってきました。私が選んだのは戦いの場面なので、力強く読んでいたところを参考にしたいです。



ポイント

- ・読み取った内容や読んで考えたことを、グループや学級全体で伝え合わせる。
- ・なぜその場面を選び、どんなことを表したいのかを相手に伝えさせることで目的意識をもたせるとともに、朗読を聞く側にも視点をもたせる。
- ・朗読を聞き合い、互いの良さや感じ方の違いを見付け、話し合わせる。